

令和6年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
授業の内容について	学部1年		1	様々な体験がしたい。 例えば、実際に農村に行って農業体験や農作物の販売の流れまでを体験したい。	ご意見ありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。農村での体験についてはカリキュラム編成上の制約もあり難しい部分もありますが、2年生の生物生産システム実習Aではフィールドでの実習があります。
	学部2年	応用生命コース	2	インターンなどを増やして欲しい	専門科目の「産業体験実習」のほか、COC+Rプログラム（教養教育科目）の「エクスターンシップ」「実践型インターンシップ」も開講されています。そのほか、キャリア支援室でも情報を得られるかもしれませんので活用してみてください。
	学部1年		3	先生たちで事前に打ち合わせをしてほしいです。先生によって話が矛盾しています	ご意見ありがとうございます。参考とさせていただきます。
	学部4年	応用生命コース	4	講義の質に教員間で差があるように感じる。	
	学部2年	生物生産システムコース	5	農業・経済に関する講義などがあるが、実際にフィールドに出での学習が少なく感じられるので増やしてほしい。	ご意見ありがとうございます。カリキュラム編成上対応が難しいこともありますが、今後の改善の参考とさせていただきます。なお、一部の講義では実際のイチゴ栽培の研修施設に訪問しフィールドでの学習を実施しています。
	学部4年	生物生産システムコース	6	実習過程で実際に研究室を巡るという回があっても良いかもしれません。	ご意見ありがとうございます。研究室の場所が遠方に分散している関係で対応が難しいこともありますが、今後の改善の参考とさせていただきます。
	学部1年		7	もう少し専門的な内容である方がよい	ご意見ありがとうございます。2年生以降、より専門性の高い授業が増えますので、今のうちにぜひ基礎をしっかり確認し足場を固めていただきたいと思います。また、教員が授業内容の意義について伝えることも重要ですので、改善の参考にさせていただきます。
	学部1年		8	専門科目はあまり面白くなかったです。 この勉強が何につながるのかわからず、ただ単位をとるための勉強しかしなかったため、身についているかといわれると身についてはいないと思いますし、時間の無駄に感じました。そこで、教員の方たちが「この勉強は〇〇に繋がっていく」ということを教えていただけたら、それを体験できる機会を設けるなどして勉強が楽しいと思えるようなシステムの導入も検討していただきたいです。	
	学部1年		9	前期の内容は簡単で物足りなく感じた。	
	学部1年		10	特にないが徳島大学の生物資源でしかできないという実感をできるものがあまりなかったように思える。	
	学部3年	食料科学コース	11	教養教育が取りやすいカリキュラムだとありがたい。また、専門科目については基礎というならきちんと基礎を学びたい。教科書の共有すらされていないのか1年生の時にいった内容のほうが難しいということがあった。	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考にさせていただきます。特定の授業であれば、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると改善につながります。
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	12	大学院に入ってから授業では、自分で論文を読んでまとめて発表をするといった形式の授業が多かったように感じる。自分で実験をしてやっと今までの授業で学んできたことが理解できるようになってきているため、アウトプットの授業ではなく、インプットの授業をもう少し増やしてほしい。	ご意見をありがとうございます。

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	13	データサイエンスの授業を取る理由が分からない。プログラミングはほぼすべて理工学部の方に任せる形であったため、必修で受講させる意義が分からなかった。	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考にさせていただきます。
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	14	データサイエンスの授業で、他学部プログラミングを頼るのが申し訳ない。研究に打ち込みたいが、授業をとらないといけないのかと思ってしまった(授業が役にたつ内容なら満足)。	
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	15	あまり困ったことはなかったが、データサイエンスの講義が難しく、課題提出に手間取った。	
	学部3年	生物生産システムコース	16	もっと実験を取り入れて欲しかった　コースによって実験あるなしの差が大きいと感じた	生物生産ではフィールドの実習などもありますので、どうしても実験の時間が限られてきます。しかし、現在の実習内容をより充実させるような改善は必要と考えます。ご意見参考にさせていただきます。
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	17	学部の授業に関して、発生生物学や遺伝学、集団遺伝学といった基礎的な科目を取り入れ、考える基礎を養う必要があると考えています。研究するにあたって必須の知識であるの考える礎となるものであると考えています。また、経済・経営といった科目も生物のバックグラウンドを養った上で学ぶと新たな発想や展開が期待できる可能性があると思います。さらに、一次産業は、生命を取り扱うので、特に基礎的な知識や考え方が必要になると思います。実習に関しては、生物生産コースが実験をほとんど行わないため、この点を増やす方向に改善すると研究室に入ったあと、スムーズに研究に取り組めるようになると思います。また、実験内容が自分に向いているか、各研究室が行っている研究のイメージなど、研究室に入ったあとのことも考えるきっかけになりよいと考えます。  総合的に基礎的な知識や考え方、技術を養うとともに精神的な成長を行えるカリキュラムが学生の将来の道を広げ、結果的に物事が良い方向に進むようになるのではないかと考えています。  進学や就職のどちらを選択するにしても学生時代に培ったものを活かせる環境が必要だと思っています。	ご意見、ご提案をありがとうございます。特に実習に関する点など、改善の余地があるように思いますので、今後の検討の参考にさせていただきます。
	学部1年		18	言語の授業で同じ言語でも先生によって学ぶ内容が違うのが気になった。	(教養教育係からの回答) 現在はそれぞれの教員が各自の裁量により授業内容を決定していますが、今後、教科書の統一などを検討しています。
	学部2年	食料科学コース	19	面白いです。	ご意見をありがとうございます。
	学部3年	食料科学コース	20	各研究室の基礎的な技術の習得だけでなく、どんな研究をされているのかも知ることができ、貴重な実習だだと思います。授業も日常においての例えなどもあり面白いです。	
	学部3年	食料科学コース	21	楽しんでできる	
	学部4年	食料科学コース	22	幅広い分野において学習できる授業・実習にととても満足しています。	
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	23	専門だけでなく他分野や国際理解に関する授業を受けたことで知見が広がった	
	学部1年		24	自分の興味のなかったことなども学ぶ機会があったので良かった	
	学部1年		25	いろんなことを学べて良かった	
	学部1年		26	さまざまなことを学ぶことができました	

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部1年		27	前期から生物資源産業学概論でいろんな先生方の研究内容を知ることができたのが良かったです。	
	学部1年		28	授業難易度がちょうどよかった	
	学部2年	応用生命コース	29	2年生になって専門的な内容が増えたが、その分やりがいがある内容となったので、とても満足しています。	
	学部2年	応用生命コース	30	専門的な科目を受けられて良かった。	
	学部2年	食料科学コース	31	難しい講義が多かった。	
	学部2年	食料科学コース	32	細胞情報学が面白かった。	
	学部2年	食料科学コース	33	よかった	
	学部2年	食料科学コース	34	楽しく受けることが出来た	
	学部3年	応用生命コース	35	非常に興味を惹かれる分野に出会えました。	
	学部3年	食料科学コース	36	動物実験以外はとてもよかった。	
	学部3年	食料科学コース	37	それぞれの授業に特色があるため、飽きずに受けることができました。	
	学部3年	食料科学コース	38	様々な分野の講義を受けることができて知識や興味が広がった。	
	学部3年	食料科学コース	39	知的財産の基礎と活用の授業で著作権や特許などについて学ぶことができ、良かったです。	
	学部3年	食料科学コース	40	ボリュームがあった	
	学部4年	応用生命コース	41	英語論文読解などの授業では、英語での発信力の向上につながった。	
	学部4年	食料科学コース	42	英語論文を通して、英語と向き合う機会があり、研究だけの知識だけでなく学習することが出来る点は良かったです。	
	学部4年	食料科学コース	43	英語の論文を読み、知見が広がりました。	
	学部4年	食料科学コース	44	英語論文講読では、論文発表を通じて自分が扱っていない操作方法などを身につけることができました。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	45	取ってよかったと思える授業もあれば、正直とらなきやいけないのかなと思う授業もあった。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	46	全体的に良かった	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	47	学部よりもより専門的な授業内容を学修できて、非常に面白かったです。	
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	48	「植物細胞工学特論」という刑部敬史先生の授業を受講したのですが、自分の研究内容や研究で用いている技術をスライドにまとめて、発表する授業だったのですが、自分の研究内容を改めて理解する良い機会になったし、先生からもいくつかアドバイスをいただいて、より研究に力を入れようと思う良いきっかけになりました。	
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	49	良かったです	
授業の進め方について	学部2年	応用生命コース	50	対面授業は必ず講義スライドをマナバや資料を配布して見るができるようにしてほしい。板書と違って、スライドだと書き取りが追い付かないことがあるので、写真を撮りながら、ノートを書きとるのがかなり大変です。 実習では実験ごとに生成物量の文献値が欲しいです。文献値がある方が考察しやすいです。	ご意見ありがとうございます。授業ごとの方針などにもよりますが、基本的に資料の配布は学修をサポートするものと思いますので、配布の促進を検討したいと思います。個別授業での対応については、担当教員に相談してみてください。

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部2年	食料科学コース	51	気温が高いのに10月になったらクーラーが使用できず、暑かった。 k棟の教室の後ろの方の席で、プロジェクターが前に1個しかないと距離があって文字が見えない。スライドを用いている授業は、教務システムかマナバでスライドを共有してほしい。	使用期間以外で、エアコンの使用が必要なときは、授業担当教員へ申し出てください。教員が教室全体の状況をみて必要と認めるときは、エアコンを使用できるようにします。なお、電気代、ガス代の高騰の影響や、環境への配慮もありますので、節電にご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。スライドの共有については、すでに実施している授業も多いとは思いますが、より推進するよう今後の改善の参考にいたします。
	学部2年	食料科学コース	52	実習のレポートに関して考察や結果をまとめるのはためになっていると思うのだが、ただ実習書を写す課題などは時間の無駄に感じる。	ご意見ありがとうございます。授業改善の参考にさせていただきます。ただ、一見無駄なようでも、担当教員の意図があつてのことと思いますので、基礎的な取り組みを有意義な学修につなげていただきたいと思います。
	学部2年	食料科学コース	53	各先生ごとのレポート点がどれぐらいで付けられているのか気になるので、公開してもらえるとモチベーションにつながる。	ご意見ありがとうございます。授業の記録管理などの点からすべてのケースで公開は難しい事情もありますが、参考にさせていただきたいと思います。
	学部2年	食料科学コース	54	テストの結果を自分で確認したい。	
	学部3年	応用生命コース	55	解説が主な授業はメディア授業のほうが聞き取りやすく、勉強がスムーズになると思う	ご意見をありがとうございます。参考にさせていただきます。
	学部3年	生物生産システムコース	56	課題：学部生同士でのつながりが薄い。仲間づくり、学生自身の主体的なキャリア形成につながるような工夫を導入するべきである。（コース内の人間関係も希薄で、ただ講義という名の情報伝達を受けて帰るだけの習慣が身についてきてしまっているのは非常にもどかしいと感じる）  解決策①：プロジェクト型の講義形式を採用する。 第1講から最終講まで5人くらいのチーム（同一メンバー）で講義の中で課題となるテーマを自分たちで設定し、解決策を模索し、発表するといったようなものを増やすことで学生自身の勉学や大学生活、自身のキャリアを形成する上で主体的な姿勢で取り組むことができるようになるのではないかと。（例：向井先生の「機能食品学」や森松先生の「商品開発論」などを参照）  解決策②：教員による知識の伝達が行われた後に、学生同士での討論タームを毎講義に導入する。 自分も含め、他の学生が講義に対してどのような意見を持っているのかを共有し合うだけでも、十分自身の意見の言語化を行うことで、より講義自体に対する内容の理解を深めることができ、学生間での交流にもつながるのではないかと考える。「アグリビジネス論」の講義などまさしく学生同士で講義内容について論じあうことで、より学生が自身のキャリアや社会の課題を認識し、主体的な行動をとることに繋がっていくのではないかと考えている。（例：北岡先生の「企業を知ろう」を参照）	ご意見、ご提案ありがとうございます。プロジェクト型や討論などの実施は、授業への主体的な参加につながり学修効果も実感しやすいかと思います。ただし、授業の内容や受講者数などによっては実施が適さないあるいは難しい場合もあります。それぞれの授業でより効果的な授業形態の構築を進められるよう、いただいたご意見やアンケート評価の結果などを検討に役立てていきたいと思っています。

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部1年		57	メディア授業を行う際に、教員側の声の音量がこちら側で音量を上げても聞き取りづらいほど小さいときがあったため、外部マイクなどを接続していただけると聞き取りやすく、うれしい。	ご意見をありがとうございます。特定の授業であれば、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると改善につながります。
	学部1年		58	話を聞くだけの授業が多かったので、生徒が主体的に取り組めるようなものを増やしてほしい。 たとえばグループワークなど 授業ごとに様々なグループで活動し、交流の場も広がると尚更楽しいと思う。	座学で基礎をしっかり学ぶことで、グループワークによる教育効果が大きくなりますので、座学も重要です。また、残念ながら授業の内容によっては、グループワークを行にくいものもあります。もし、特定の授業でグループワークをした方が有効ということであれば、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると助かります。
	学部1年		59	興味深い内容の授業が多く良かったが、一方的な知識伝達が多く眠くなりがちであった。	授業の内容によっては、知識伝達が主になる場合もあります。予習や授業中に生じた疑問について積極的に質問をすることで、理解も深まりますし、授業もより活性化することと思います。
	学部2年	食料科学コース	60	教員の一方的な授業が多かった。また、資料や教科書の内容をただ話すだけでどこが必要か、重要なかが分からない部分があって苦労した面がある。	授業改善につながる具体的な要望がある場合、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると助かります。
	学部3年	食料科学コース	61	先生の一方通行の話が多すぎる。さらには、レポート提出のみを求めフィードバックはほとんど返ってこない。知識をまとめる過程で多少は学ぶものがあるが、「これは正しいのだろうか?」と思いながら書いたものについて分からないまま単位を習得することとなる。せめて実験レポートや発展的な課題では学生の成長のために返信をいただきたいです。	ご意見ありがとうございます。フィードバックは学習効果を高めるために重要と思います。授業によっては個別対応が難しいケースもあるかとは思いますが、改善に向けた参考とさせていただきます。レポート内容に関する質問などある場合、ぜひ積極的に教員に問いかけて多くを引き出していただけたらと思います。
	学部3年	食料科学コース	62	微生物検査のように授業に関連することを調べて発表し、教員がフィードバックという講義がもっと増えたら良いと思う。	ご意見ありがとうございます。授業改善の参考にさせていただきます。
	学部3年	食料科学コース	63	実験レポートの提出方法を統一していただきたいです。	ご意見ありがとうございます。授業改善の参考にさせていただきます。
	学部3年	食料科学コース	64	教務システムのメールで添付された資料をOutlookで開けないのが不便。授業の連絡はmanabaで統一してほしい。	ご意見ありがとうございます。授業改善の参考にさせていただきます。
	学部3年	応用生命コース	65	実験時間が長すぎたり、休憩時間が確保されていない実習があったりしたので、授業時間内に終わるよう、実習内容を見直してほしい。	ご意見をありがとうございます。特定の授業であれば、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると改善につながります。
	学部1年		66	グループワークが楽しかったです。	ご意見をありがとうございます。
	学部1年		67	グループワークが楽しかったです。	
	学部1年		68	聞くだけ退屈なものがあった。	
	学部2年	食料科学コース	69	食料科学基礎実習で他の授業の中間試験や期末試験を考慮してレポートの締切をテスト期間とずらしてくれたことが良かった。	
	学部3年	食料科学コース	70	発表やグループワークを通して、授業内容の理解が深まった。	

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部3年	生物生産システムコース	71	全問でも述べたが、向井先生の「機能食品学」に関してはこれから研究室に配属される我々にとって「研究室活動」の一部を体験することのできる良い機会となった。そのうえで自身が現状抱える課題であったり、チームとして成果物を作成し、発表することの難しさ・やりがいなどを学生に認識させることができていたと考える。  また、岡先生の「水産資源学」は説明がびっしり詰まったレジュメを配るだけ配って、スライドは基本的に関連する写真や動画にを大量に掲載することで講師の伝えたい事がダイレクトに伝わり、講義を受けていて苦痛に感じる事がなかった。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	72	グループワークもあり楽しく授業を受けることができた。	
時間割について	学部3年	応用生命コース	73	集中講義を2つ履修しましたが、日程が被ってしまい1つの講義の履修を削除するよう言われました。単位数を計算して履修していたので、日程が被っていることをもう少し早く知らせて欲しかったです。	ご意見をありがとうございます。改善できるように努力します。
	学部4年	食料科学コース	74	実習の時間をもう少し長くしても良いのかなと思いました	ご意見ありがとうございます。
	学部2年	応用生命コース	75	必修科目、選択必修科目が1.2限と9.10限にあるような授業がある、空きコマができるのが嫌なので必修科目はまとめてほしい。また、選択必修科目で一コマのために学校に来なければならない日があるため、授業がない日と授業がある日をまとめてほしい。	時間割については、教養教育や各学部の授業との兼ね合いにより調整しており、また、担当教員も複数の授業を持っており、現状、変更は難しいです。ご理解いただければと思います。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
	学部2年	応用生命コース	76	授業が曜日によって一日中ある日もあれば、ひとつしか授業がない日もあるので、そこは時間割を上手く考えて欲しいです。	
	学部3年	食料科学コース	77	選択必修の曜日を散らしてほしい。金曜日だけすごく忙しかった。	
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	78	集中講義を毎週行うのなら、時間割の表示だけでも最初からその曜日に入れておいて欲しい(生物生産科学特別実習)。  いくつかの講義に言えることであるが、講義前日の夜に講義連絡が来るのはいかがなものなのか？	ご意見をありがとうございます。改善できるように努力します。
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	79	前期授業開始後に時間割の変更連絡が来るのはおかしい。そもそも開始後に時間割の変更がまかり通るのもおかしい。	ご意見をありがとうございます。この度は、前期授業開始後に時間割の変更がありご不憫をおかけしました。今後はこのようなことがないように、事前に調整をしっかりと行うようにいたします。
	学部2年	生物生産システムコース	80	授業の時間割が履修登録機関の直前に変わってしまうと予定の調整に苦労するので時間割の冊子との変更点はできるだけ早めに知らせていただきたいです。	ご意見をありがとうございます。できる限り早めに知らせよう努めます。
	学部3年	応用生命コース	81	曜日によっては難易度が高い授業が重なっていて、試験実施日も重なっていたため苦労した。学習量を確保するために、分散させたり、試験実施日をずらしたりしてほしい。	学期末には試験が重なり準備も大変なことと思いますが、個別授業間の試験実施日の調整は困難なところです。授業開始の早い段階から計画的に試験対策を進めていただければと思います。
	学部2年	応用生命コース	82	時間割について 転コースをしたので、特定のコースの実習と、他コースの実習、授業が被っていないのが助かりました。	ご意見をありがとうございます。
カリキュラムについて	学部1年		83	理系学部なのに数学系の講義がほとんどないのが疑問。 理工学部や医学部などの数学系の講義を選択必修にするなどした方がいいと思う。	教養教育科目では、『基礎数学』の他にも『数学』をはじめ、いろいろな数学に関する科目があります。

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部2年	生物生産システムコース	84	実習の機会、日数、期間を長くして欲しい。	ご意見をありがとうございます。生物生産システムコース内で研究分野別に日数や期日を構成していますが、他のカリキュラムとの構成もありますので時間の確保が難しい場合もあります。対応が可能か今後の参考とさせていただきます。
	学部3年	生物生産システムコース	85	・COC+R事業・プロジェクトマネジメント（理工学部対象講義）・次世代事業創造実践といったプロジェクト型の講義に対する窓口が理工学部・総合科学部に比べて圧倒的に少ないため、自身のキャリアを想像することができず、課題感をもって学生生活を過ごす学生が少ない。（必ずしも課題感を持つ必要があることを強要しているわけではないが、その機会を増やす必要性があることを強調したい。）	ご意見をありがとうございます。現在、次世代事業創造実践のひとつであるアントレプレナーシップ科目を生物資源産業学部においても開講することについて、検討を進めているところです。
	学部4年	生物生産システムコース	86	それぞれの授業の傾向や専門性が全く違うので、授業で得た知識があまり研究活動に活かせないイメージがある。	ご意見をありがとうございます。
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	87	学部時代、強制的に英語教育にもっと力を入れるカリキュラムがよかった。	ご意見をありがとうございます。
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	88	生物資源学専攻がデータサイエンスを必修で取らないといけないのはやめるべきである。実際に抗議を受けてみて、受講する意義が理解できなかった。	データサイエンスは、生物系含め現代社会のさまざまな分野で極めて重要な役割を果たしています。授業での学びをぜひ今後の活動に生かしていただきたいと思います。
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	89	生物生産科学特別講義に関して、様々な分野の方々の話を聞け、視野を広げるとともに様々な視点を養えて良い授業であるとは思いますが、実施している時期が修士課程の2年であり、研究や就職活動が忙しい時期であるため、修士課程の1年で履修できるようにしていただきたいです。また、生物生産科学コースに進学している周囲の人達は、あまりこの授業を受ける意味を見いだせておらず、もう少し基礎研究的な内容の方が興味が湧くのではないかと思います。	ご意見ありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	90	もう少し、授業数を減らしてほしい。	ご意見ありがとうございます。
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	91	学部からかもしれませんが、統計学や微積分学といった研究に必要な知識をもう少し深くまで学ぶようなカリキュラムにしていきたいです。	ご意見をありがとうございます。カリキュラムの改善の取り組みは継続しますが、学生のみなさんには、ぜひ授業をきっかけに自身で知識を深める取り組みも進めていただきたいと思います。
その他	博士前期課程1年	食料生物科学コース	92	M1になり就活が始まり授業と被ることがある。B4でM1の授業を取ることができる制度があれば良かったと感じる。	ご意見をありがとうございます。現状、本学部、本専攻では早期履修科目の定めがありませんので、今後の改善の参考とさせていただきます。
	学部4年	応用生命コース	93	大学院の授業を4回生の時に早期履修できるような制度があると非常に良いと思います。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	94	学部生の段階で、院の授業を取得できる制度があればいいなと感じていました。	

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部2年	応用生命コース	95	オンライン授業を増やしてほしい。スライドが見えづらい授業や、人が多く、集中できない授業があるため。またエアコンがついていない授業もあり、暑くて全く授業に集中できない授業もあった。また、実験等、授業時間を超えて授業が長引くときがあったため、予定が狂うときがあった。そのため、授業時間を超えて授業をしないようにしてほしい。やむを得ず延長してしまう場合は予め早めにそのことを知らせてほしい。	メディア授業により修得可能な単位数の上限が60単位と大学設置基準でも定められており、オンラインを増やすことは難しいと思います。スライドが見えづらい場合は教員に資料の事前共有など対応してもらえるか相談してください。また、使用期間以外で、エアコンの使用が必要なときは、授業担当教員へ申し出てください。教員が教室全体の状況をみて必要と認めるときは、エアコンを使用できるようにします。実習で時間を超過する時があることは、授業の性質上やむを得ないケースもあるかと思いますが、内容の見直しで改善可能な場合もあると思います。今後の改善の参考とさせていただきます。
	学部2年	食料科学コース	96	1限の時間帯の遠隔授業制度をもう少し取り入れてほしい	対面授業を基本としつつ、授業の内容、受講者数、教育効果など、様々なことを勘案して、対面授業よりも遠隔授業が適していると判断した場合に、実施しているものです。また、卒業に必要な単位数のうち、メディア授業により修得可能な単位数の上限が60単位と大学設置基準でも定められております。
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	97	大学院の研究室ごとの指導の違いに不満がある。配属される研究室によって教授のやる気や力量に差がありすぎるように感じる。私の研究室ではやる気のない人は良いが、やる気のある人が、先生にアドバイスを求めに行ってもその場しのぎの回答が返ってきて真剣に考えてくれないことが多々ある。授業のない時期は先生のやる気があるのだが、授業が始まると忙しくなり、研究どころではないようだ。学生はみんな同じ授業料を払って、大学院に通っているのに、教授のやる気や力量の差で不当な扱いを受けるのはどうかと思う。指導に一定の基準を設けるべきだと思う。	教員の研究指導について問題があると感じている場合、できれば早めに担当教員に相談していただきたいと思います。意思疎通の問題である可能性もあります。直接の相談が難しい場合、副指導教員やアドバイザーに相談してみることを勧めます。
	学部2年	応用生命コース	98	かなり暑い日もあったがエアコンが効いておらず、窓を開けても風が入ってこないため暑い中耐えて授業を受けなければならなかった。そのような授業は全く集中できる環境ではないのでエアコンを入れてほしい。大雨の中授業があるときがあったため、そのような日は積極的にオンライン授業を取り入れてほしいと思った。また、授業中私語をしている人がおり、騒がしく授業に集中できないときがあった。カードリーダーを押して帰っている人がいるのも対応してほしい。授業中カンニングをしている人がいる。	使用期間以外で、エアコンの使用が必要なときは、授業担当教員へ申し出てください。教員が教室全体の状況をみて必要と認めるときは、エアコンを使用できるようにします。大雨の際のオンラインは確かに有効ですが、事前の予測や直前の周知が難しいケースもあるかと思いますが、私語やカードリーダー、カンニングの問題について、教員間で共有し改善を進めたいと思います。



授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部1年		99	専門科目に対してのフォローアップ制度を作ってほしいです。図書館で教員から講義やレポートについて相談できる機会は設けられていますが、システムとして十分ではないと思っています。教員からのアドバイスだけではなく、先輩からのアドバイスもいただけるような機会を設けてほしいと思っています。サークルなどで人脈を作りそこから情報を得るのでいいのではないかという意見もあるとは思いますが、情報が不確実であり、役に立つかわからないことがありました。そこで、先輩からのアドバイスを頂くためのシステムとして、学部ごとに講義に対する課題や悩みを取りまとめたサイトを作り、そこに下級生が随時、質問を書き込み、先輩がそれについて答えるというシステムを取り入れるのはよいのではないかと思います。そうすることで科目に対する不安が軽減され勉強を頑張ろうという意欲にもつながっていくのではないかと考えます。	ご意見ご提案をありがとうございます。上級生からのアドバイスが受けられるシステムは重要だと思います。ただ、サイトをつくることについては、安易に答えを求める場にならないかなど、慎重に検討する必要があります。授業によってはTAの導入で改善されるかもしれません。ご意見今後の検討の参考にさせていただきます。
	学部3年	応用生命コース	100	編入生の友人がいるが、研究室配属された今も、前期と同程度の授業を受けている。大変だと思った。	編入生は入学時の単位認定の関係で、学期ごとに取得すべき単位が多くなる傾向があります。入学時の単位認定をできるだけ増やすことは今後の検討課題と思います。
	学部2年	食料科学コース	101	英語の単位を検定などで置き換えることができるが、検定の難易度を下げ、置き換えることのできる単位数を減らすことができればいいなと思った。	(教養教育係からの回答) 徳島大学として学生のみなさんに身に付けてほしい語学力のレベルと、外国語検定試験の各級のレベルを対応させて、置き換えることができる単位を決定しています。そのため、認定する単位数を少なくし、その分、試験の難易度を下げるということは予定していません。
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	102	現在のGPA評価は、進級・卒業に必要な最低限の単位全てを秀で修得した学生の方が、余分な科目を修得して秀以外の成績を修めた学生よりも評価が高くなるものとなっている。GPT評価も使用しているのは理解するが、一定の単位数(成績の良いところ取り)におけるGPAなど、評価軸の改善を行うべきではないだろうか。	ご意見をありがとうございます。
	学部1年		103	履修登録をもう少しわかりやすく、簡単にしてほしいです。説明が不十分だと思いました	ご意見をありがとうございます。具体的にどのあたりが分かりにくいのか教えていただければ、検討することができます。
	学部2年	応用生命コース	104	履修登録が難しかった。	
	学部1年		105	履修登録が難しかったです。	
	学部3年	応用生命コース	106	テストなどで暗記して答える問題の割合が多く感じたので、暗記したものを使いつつ、その場で考えて答えられるような問題があったら面白いのではないかと感じた。	ご意見をありがとうございます。
	学部4年	応用生命コース	107	専門科目のテスト期間が長期間に渡っており、学生の負担が大変に大きい。テスト期間を擦り合わせるなどして、2,3週間にまとめていただきたい。	中間試験や期末試験を行う授業が多く、負担は大きいかもしれませんが、各授業科目のシラバスや学年歴から、だいたいの試験時期は予想できるかと思います。計画的に勉強を進めることを意識してもらえたらと思います。今後の研究でも、卒業後でも計画的進めることはとても大切なことですので、将来的に自分のためになると考えてがんばってください。

授業・実習およびカリキュラム関係

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部3年	食料科学コース	108	対面授業が主であり学びやすかった。ただ学生実習での十分な説明なしの強制の動物の解剖実習は意味があると思うが、精神的な苦痛を受けている人もいるため、十分な説明と、参加の希望を取るべきであると思う。	ご意見をありがとうございます。授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると改善につながります。また、実習の初めに説明の時間があるかと思います。そこで、質問や意見を述べることもできるかと思います。
	学部2年	生物生産システムコース	109	産業体験実習において、事前に「この日までに日程の連絡があると思われる」と聞いていた日から大きくずれ込んで日程連絡があった。農作物を扱う仕事なので事前の日程と異なることは承知していたのだが、教授のLINEがグループに追加されなかったことや、連絡が遅れることについてメールなどで通知がなかったことなど、不安を覚える要素が多かった上に、アルバイト先にもシフト提出に関して迷惑をかけてしまったため、その旨を担当の教授にメールしたら、アルバイトと実習どちらが大事なのか考えるようにと返ってきた。学生の本業は学業であることは十二分に承知しているが、だからといってアルバイト先に迷惑をかけても良いという理由にはならないと思う。企業が絡む講義のため不確定要素が多いのは構わないが、学生ともう少し密に連絡を取るべきではないかと思う。	貴重なご意見ありがとうございます。
	学部1年		110	遅延証明書を認めてもらえなかったことが困りました。	ご意見ありがとうございます。今後の改善に役立てます。
	学部4年	生物生産システムコース	111	学会参加費を学生が全額負担をするのがしんどいので、一部でもいいので補助、負担してほしい。	それぞれの研究室により対応が異なります。全額負担されている研究室もありますので、指導教員と調整して下さい。
	学部1年		112	教養科目と言語科目の、抽選や出席番号による単位のやすさの差がひどい。	(教養教育係からの回答) 現在はそれぞれの教員が各自の裁量により授業内容を決定していますが、今後、教員間で評価基準をそろえるなどにより、単位取得の難易度の差を解消するよう努めています。また、現在も、同一の学部・学科間の異なるクラスでGPCが大きく異なる場合には、教養教育院と授業担当教員との間で話し合いを行っています。
	学部2年	食料科学コース	113	英語に関して、担当する先生によって成績の差が生まれているため、それを改善していただきたい。	
	学部4年	生物生産システムコース	114	研究活動は大変充実していたと思う。	ご意見をありがとうございます。

令和 6 年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

授業以外の大学生活

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
困ったこと	学部3年	食料科学コース	1	メッセージがわかりにくい。 outlookできたり、学務システムのメッセージできていたりで見逃しそうになるものが何個もあった。統一してほしい。	ご意見をありがとうございます。基本的に、学務係からの通知は教務システムのメッセージを使用してお送りしておりますが、教員からの連絡は、直接outlookのメールアドレスに届くことがあるかもしれません。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	2	教授にわからないことを質問しても自分でやれや、嫌な顔をされることがある。常に教授の機嫌に振り回されることで、精神的につらくなり、研究に対するアドバイスをもらいに行くことが困難になってきている。せっかく就職先が決まったのに、このような状況では実験もうまく進まず、ちゃんと卒業できるのか心配。卒論や修論の最終審査や発表においてもこのように教授によるレベルの違いが発生してしまうことを考慮して、審査をしてほしいと心の底から思う。	院生の指導については、主指導教員の他に、副指導教員とアドバイザーが担当しています。困難を感じている状況について、主指導教員の先生への相談が難しい場合、まずはご自身の副指導教員とアドバイザーの先生を確認し相談されることを勧めます。
	学部4年	食料科学コース	3	7－9月は、部活動で利用した体育館が暑過ぎて、体調管理が難しかった。	（学生支援係からの回答） 夏場の体育館が高温となるため、利用者の体調の安全面からエアコン導入が最も効果的な対策ではありますが、導入に当たっては諸設備及びランニングコストに大変高額な費用が発生し、また近年の電気代等の高騰もあることから、現状では難しいと言わざるを得ません。 館内の温度を下げるものではありませんが、体育館には送風器を設置しています。また、令和5年度にポータブルクーラーを購入いたしましたので、一時貸出も可能です。これらを利用して、こまめに水分補給などを行い熱中症対策など体調管理をお願いしたいと思います。
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	4	教務システムでタイムアウトした場合に飛ぶことのできるログインページからログインすることができない。	（教務情報係からの回答） タイムアウトした場合のリンクからログインページに遷移するように修正いたしました。
	学部1年		5	食堂のメニューが1週間ごとに変わるのはいいと思った。ただ、ライスや丼物のサイズをいうときにS,,M,Lを聞き間違えられることがあったので、サイズの言い方を小中大などの言い方に変えてほしい。 また、自転車が一列に並んでおらず、人の自転車を動かさなければ自分の自転車を動かせないときがあり、大変だった。	（生協からの回答） 発音が類似しているため、ご意見はごもっともだと思います。メニュー名については、中四国地区の大学生協で共同して開発・運営しており、名称の変更は、システムやプライスカード、ポスター類にも影響するため、単独での修正ができません。共同事業を担当する部門に改善提案を行います。直ちに変更とはいきませんが、他大学を含め名称を変更することに支障がなければ改善できると考えています。

授業以外の大学生活

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部3年	食料科学コース	6	K棟側の売店の営業時間を延長してもらいたいです。	（生協からの回答） 購買系の店舗は、コロナ前（2018年）と比較して、総利用者数が48％にまで落ち込んでいます。常三島ショップでさえ70％に届かず、小規模店舗の「えみり」や「さんじょ」それぞれ8％と19％の利用しかありません。両店ともコロナ以降は赤字続きで生協の経営にとって深刻な状況です。少しでも組合員の財産を減少させないため、利用の一番多い時間帯のみを最小の体制で運営しています。人手不足もあり職員の体制を整えつつ、営業時間を拡大していく予定ですので、それまで今しばらくお待ちいただければと思います。
	学部4年	応用生命コース	7	研究室に配属されてから、機械・生物棟で過ごすことが多くなったのですが、夏休みなどの8月後半から9月にかけて、食堂がクレアしか開いていないので遠いです。できれば機械・生物棟の近くの食堂も開けてほしいです。	（生協からの回答） 「キララしか開いていないので、クレアも営業してほしい」というご主旨と受け止めご回答いたします。前述（2）のご意見の回答と同じく、小規模店のクレアも利用が低下している店舗の一つで、これまでお弁当という業態により何とか成立させてきました。夏休みや春休みは著しく利用が減少するため、コロナ前でさえ採算が合わず営業はできていませんでした。研究室に所属の皆さんにはご不便をおかけしますが、学内人口が著しく減少する時期は、キララをご利用いただけますようお願いいたします。

授業以外の大学生活

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部4年	応用生命コース	8	生活協同組合で販売される商品の販売価格が高く感じられる。	（生協からの回答） 近隣のドラッグストアやディスカウントなどの 広域チェーンは、一括大量仕入れ、過剰在庫や 消費期限の短い商品の扱い、物流コスト、など により低価格での提供を可能にしています。生 協は業態が違うことや扱い量も少ないため同じ ようにはできませんが、コンビニより安くある いは同等の価格をめざして取り組んでいます。 生協は「新入生のつどい」や「自転車無料点 検」など様々な活動を通じて学生支援を行うほ か、店舗における要望や相談への対応を行いよ りよい大学生活のために取り組んでいます。も ちろんこれからも低価格に向けた努力を行いま すので、今後も学生のサポートを行う生協とし て活動を維持できるよう、生協価格へのご理解 をお願いいたします。
良かったこと	学部1年		9	一人暮らしにやさしい環境があること	ご意見をありがとうございます。
	学部1年		10	鳥人間コンテストに出場して、徳島鳥人間プロジェクトの記録更新に貢献できたことがよ かった。	
	学部1年		11	ボランティアやアルバイトなど高校生まですることのなかったことを体験できて良かった	
	学部1年		12	国際課が開催した留学生と交流するイベントが多くて良かったです	
	学部1年		13	食堂のご飯が美味しかった。	
	学部1年		14	一人暮らしで料理やお金の計算を経験できた事は良かった。	
	学部2年	応用生命コース	15	留学に行けたこと	
	学部2年	食料科学コース	16	履修登録の際、学務係にお世話になり、とても助かりました。	
	学部2年	食料科学コース	17	友達ができた。	
	学部2年	食料科学コース	18	友人と一緒に遊んだり、勉強出来たこと	
	学部3年	応用生命コース	19	パソコン関係で分からないことがあったときに、情報センターに伺ったら丁寧に教えてい ただけたので非常に良かった。	
	学部3年	食料科学コース	20	コロナウイルスの影響が少なく十分な課外活動ができとても充実していた。	
	学部4年	応用生命コース	21	学園祭などの行事を学生が主体的に取り組めているところが良かった。	
	学部4年	食料科学コース	22	ボランティア活動への参加や部活動を通して多くの人とコミュニケーションをとることが できたこと。	
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	23	先輩からのサポート等が手厚い	

授業以外の大学生活

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
良かったこと 困ったこと	学部2年	応用生命コース	24	大連理工大学のサマープログラムに参加しました。海外の大学の研究設備を見ることができたので、とても良かったです。 しかし、留学の際、提出書類や保険の加入について国際課の方と上手くいなくて困りました。	(国際課からの回答) 夏休み海外留学プログラムへの参加、ありがとうございました。書類の提出については、先方からの受入許可の連絡と学内手続き締め切りの関係で、参加する方には、無理なお願いをすることになってしまいました。ご協力いただきありがとうございました。 また保険については、インターナショナルオフィスが行なっている留学プログラムに参加する方には、緊急事態に備えて、基本的に同じ保険に入っていていただいております。説明不足だったかもしれませんが、ご理解いただければ幸いです。
	学部2年	応用生命コース	25	部活やサークル、遊びも両立出来ているので楽しいです。 しかし、近くに遊びに行くような場所がありませんことが残念です。	ご意見をありがとうございます。
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	26	交友関係や考え方が広がったことと精神面で成長できた点が良かったと思います。困った点はコロナ禍で、家にいることが多くなり、人とあまり会わなくなったことが、精神的な充足感が満たないことに繋がった点です。あまり、多くの人との交流はしませんが、人がいるところや活動しているところを見るだけでも違うなと感じました。	
良かったこと 大変だったこと	学部1年		27	授業以外の生活で楽しかったことは、起業体験とインターンシップと徳島大学主催の学生と企業が連携してアイデアを出すための合宿に参加したことです。大学生活では専門的知識や教養について学ぶことが出来ませんが、それが社会に出た時にそのまま生かされるかといえばそうではないと私は思っています。社会に出た時、即戦力として、働ける人材になるためには知識を身に着けるだけではなく、それを社会に実装していこうとする考えをもって話しあい、解決する能力が必要だと思っています。それがこの夏休みに経験できたことはすごくよかったと思っていますし、これからもそのような機会があれば参加していきたいと思っています。大変だったことは、講義をとりすぎて、体力的にも精神的にもきつかったことです。興味のあるものをすべて取ったところ、半期通常単位数24であるのに対し、30単位と多く、予習や復習をしたいと思っていても、時間的にや体力的に十分できなかったとはいえ、身についているのかわからない中途半端な状態に陥ってしまいました。後期は自分のキャパを考えて講義の取舍選択を行っていきたいと思います。	ご意見をありがとうございます。
	学部1年		28	サークル活動で上下の繋がりができてよかった。人間関係が大変だった。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	29	研究生活が充実していた。 就活が早期化していることで、兼ね合いが大変だった。	
	学部3年	応用生命コース	30	良かったこと：生協の品ぞろえが意外といいこと。 困ったこと：学食が意外と安くないことととても並ぶこと。 大変だったこと：仕送り無し奨学金で一人暮らし、バイトをしながら勉強時間を確保すること。	

授業以外の大学生活

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
良かったこと 困ったこと 大変だったこと	学部3年	生物生産システムコース	31	良かったこと： ・良きサークルに所属でき、良き仲間に出会うことができたこと。 ・サークル活動を通して、周囲・学内・社会に対して何かしらの部分で貢献することができ、「自己実現」を実感できる機会をたくさん得ることができたこと。 ・たくさんの良き師（先輩・教員）に恵まれたこと。 ・自身の物事に対するアンテナを広げることができたこと。 ・自身の主体性を大いに高めることができたこと。  困ったこと： ・自身のやりたいことを見つけられない（現状も込みで） ・石井まで通うのが大変（現状も込みで） ・自身の将来像（なりたい姿）などを想像できないこと  大変だったこと： ・今までの自分を手放して、新しい物事に挑戦する勇気を持つこと。 ・自分自身と向き合い、見つめなおし、認めること。 ・変に見栄を張らず、等身大の自分で自身の感情を正直に周囲に伝えること。 ・相手を受容し、認め、向き合うことができるようになること。	ご意見をありがとうございます。
	学部2年	生物生産システムコース	32	良かったこと：気の合う友人などを学部内、所属サークル内で見つけられたこと。 困ったこと・大変だったこと：サークルを兼部しており、両立が大変であること。サークルメンバー間でのやる気の相違。	
困ったこと	学部2年	食料科学コース	33	サークル内で人間関係で板挟みになった。	担任の先生に相談してみてはいかがでしょうか。 か。無理せず辞めるのも選択肢のひとつかもしれません。
	学部4年	生物生産システムコース	34	金銭面での苦労	各種の奨学金がありますので学務係で確認して下さい。
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	35	学際が開催されて良かったです。	ご意見をありがとうございます。
大変だったこと	学部2年	応用生命コース	36	バイトを探すのが大変だった。	アルバイトは生協も募集案内を出していますので確認して下さい。アルバイトに慣れない場合は無理せず変更するのも良いかと思います。
	学部2年	応用生命コース	37	バイトを始めたのですが、なかなか慣れず大変でした。	
	学部2年	食料科学コース	38	実家住まいで、1限の時間帯の通学が大変渋滞して大変だった。	遠方からの通学は大変かと思いますが、できるだけ時間に余裕を持って、安全に十分留意して通学していただければと思います。
	学部2年	食料科学コース	39	プリンターの設定が大変	就職活動についてはキャリア支援室の利用をお勧めします。また、就活と研究の両立は指導教員との話し合いが大事です。解決できない場合は学生委員会にご相談下さい。
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	40	就活と研究室の両立が大変である。	
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	41	就職活動	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	42	就職活動	ご意見をありがとうございます。
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	43	就活と研究の両立	

令和 6 年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

施設・設備

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
建物・教室について	学部2年	応用生命コース	1	生物資源産業学部の教務係の部屋をもっと行きやすい場所にしてほしい。	本学部の専用スペースが不足している現在の状況は、ご不便およびご迷惑をお掛けしており、お詫びします。本学部の専用棟設置に向けては、今後も大学執行部に継続的に働きかけを行うのと同時に、昨年度に常三島キャンパス地区に設置された施設整備に関する委員会を通して、地区内における本学部の専用スペースをしっかりと確保すべく取り組んで参ります。
	学部2年	応用生命コース	2	生物資源産業学部の棟がないので、建ててほしいです。	
	学部2年	食料科学コース	3	常三島に生物資源産業学部の棟が欲しい。	
	学部2年	食料科学コース	4	授業を実施する棟を統一していただきたいです。	
	学部2年	食料科学コース	5	研究室が散らばっていて先生の所に行くのが難しいためできれば常三島にも学部棟を作ってほしい。 化生棟の一階の廊下が暗すぎる。	
	学部3年	応用生命コース	6	フリースペースみたいなものが欲しいです。	
	学部4年	応用生命コース	7	研究室の居室が狭いため、座る席がないです。できれば在籍している学生 1 人に対してきちんと席が 1 つ与えられるように、部屋の確保・分配をしてほしいです。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	8	自分自身特に不満はないが、学生や教員の数に対して部屋が足りているのかなと思う。	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	9	院生増加に伴い研究スペースが不足している。	
	学部2年	食料科学コース	10	講義の部屋が狭い場合があるので、改善して欲しい	ご不便をおかけしております。大きな講義室は限られており、教養教育や他学部等と調整しながら確保しております。なるべく余裕のある講義室の確保を目指していますが、難しい場合も多く、ご理解いただければ幸いです。
設備について	学部1年		11	Wi-Fiの強度を上げてほしいです。	
	学部1年		12	wifiを増やしてほしいです。	(情報センターからの回答) 繋がりにくいとの意見に対してですが、無線接続機器の老朽化や昨今の猛暑を起因とした接続不調が起きる可能性があります。それについては、新たな機器に更新できるよう、センターとしても予算担当部局へ費用の要求をしているところで、「強度を上げて欲しい」との意見にも関連してきますが、高機能の機器への更新も計画中です。全て要求が通るかにありますが、今年度も次年度に向け予算要求及び更新計画の作成を継続して実施する予定であります。 また、現状の対策として、無線接続機器を再起動することによって復旧することもありますので、不調軽減のため、毎週火曜日の早朝に常三島地区キャンパスの無線接続機器を強制再起動する設定等の対策を開始しています。それでも接続が出来ない、または接続が中断されるような事象が起きたら、直ぐ情報セン



施設・設備

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	13	WiFiを強くして欲しい	ターへご連絡ください。スタッフが対応しますし、不調時の正確な情報を得ることができ、今後の更新時の参考になります。  ただ、情報センターで提供する無線環境は、学修に関連する部屋（講義室・図書館含む）が中心の整備となりますことを合わせてご了承願います。
	学部3年	食料科学コース	14	Wi-Fiがつながりにくい教室があった。	なお、今回の様なご意見を踏まえ10/29（火）から学生向けのインターネット利用に関するアンケート（意見募集）を実施しておりますので、教務システムを確認のうえ回答いただければ幸いです。当該アンケート（意見募集）で頂戴した意見は今後、ネットワーク環境の改善に活用する予定ですので、是非、お答えいただき、反映できればと考えております。
	学部2年	食料科学コース	15	K棟の教室が暑いのでクーラーをつけてほしい。	今年度夏季のエアコンの使用期間は、試運転期間を含めて、6月24日（月）～9月13日（金）となります。とはいえ、ご意見のように利用期間以外でも、気温や湿度が高い日は熱中症等の体調不良にも配慮し、臨機応変に対応します。事務室では講義室の状況がわかりにくいこともありますので、使用期間以外で、エアコンの使用が必要なときは、授業担当教員へ申し出てください。教員が教室全体の状況をみて必要と認めるときは、エアコンを使用できるようにします。なお、電気代、ガス代の高騰の影響や、環境への配慮もありますので、節電にご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。
	学部2年	食料科学コース	16	暑い期間が長かったので、エアコンをもっと使えるようにしてほしい。	
	学部2年	食料科学コース	17	K棟の教室が暑かったので、クーラーをつけてほしいです。	
	学部2年	食料科学コース	18	授業環境を整えて欲しい (エアコン問題)	
	学部2年	食料科学コース	19	エアコンが効かない時期があり授業に集中できないことがあった。	
	学部3年	食料科学コース	20	共通講義棟の空調が気温ではなく日付で管理されていたため、気温や状況をみて柔軟に空調管理をしてほしい。	
	学部3年	食料科学コース	21	エアコンをいれていい時期が遅いのを改善してほしいです。異常気象で例年より暑くなる時期が早まっているので考慮して欲しいです。	
	学部2年	食料科学コース	22	K棟の教室が暑いのでクーラーをつけて欲しい。	
	学部3年	生物生産システムコース	23	教室が暑い、寒いのにエアコンがつけられない	
	学部3年	生物生産システムコース	24	エアコンの使用時期をもう少し見直して欲しい	
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	25	次世代シーケンサーなどの最新の機械がほしい。	研究に必要であり、担当教員が認めたのであれば、徳島大学研究支援ネットワークシステムから予約して使用することができます。ご検討ください。
	学部3年	応用生命コース	26	・女子トイレが少ない。4号館や5号館に比べてK棟や実験棟の女子トイレが少ない。 ・教員によって講義を行う教室が4号館になったりK棟になったりする。特に生産コースの教員は4・5号館をよく使うため、教室移動が面倒。基本的にはK棟に統一してほしい。	ご不便を掛けております。時間割と各授業の場所については、教養教育や各学部の授業との兼ね合いにより調整しており、また、担当教員も複数の授業を持っており、現状、変更は難しいです。ご理解いただければと思います。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

施設・設備

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部2年	食料科学コース	27	自転車で通学しているが、雨天時に屋根のある駐輪場に止めると、共通講義棟までが遠く なってしまう、不便に感じている。	ご意見をありがとうございます。参考にさせていただきます。
	学部2年	食料科学コース	28	エレベーター使いたい	エレベーターは高階層への移動や足腰に不調のある方、清掃や荷物を運ぶ方を優先いただき、 3階程度までの低階層まではできるだけ徒歩で 移動するよう、ご協力願います。
	学部4年	応用生命コース	29	化学生物棟にある防災備蓄用品の、備蓄数が学生の数に足りているのか不安がある。また、 非常用出口から距離があり、災害発生時に使用できるのか懸念がある。 化学生物棟7Fの冷水機を修理して欲しい。 生活協同組合の価格が高い。	防災物品等については、環境防災研究センター と連携して大学全体として災害対策を検討し、 対応しております。キャンパスで防災訓練を行 う際は教務システム等でお知らせしますので、 参加していただければ、状況をご理解いただけ るかと思います。なお、オリエンテーションで 配布した防災手帳（手帳に入るぐらいの黄色の 小さな3つ折り）もご覧ください。冷水機につい ては予算との兼ね合いもありますので、その点 も踏まえて検討させていただきます。
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	30	M棟の8階にも自動販売機が欲しいです。	機械棟5階リフレッシュコーナーに自動販売機が ありますので、そちらをご利用いただければと 思います。
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	31	M棟の電気が暗い	ご意見をありがとうございます。今後の改善の 参考とさせていただきます。
	学部1年		32	通学に時間がかかるため睡眠時間の確保が難しかった。自習スペースが混みあっているこ とがあり探すのに時間がかかることがあった。	ご意見をありがとうございます。常三島キャン パスでは、共創拠点（イノベーション・コモン ズ）の実現に向けて、各所にて取り組みが進め られていますので、今後、その理念に沿った共 用のスペースが増えていく予定になっていま す。
	学部2年	応用生命コース	33	授業の空きコマに時間を潰す場所がないことに困ることが多いです	

施設・設備

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
スクールバスについて	学部3年	生物生産システムコース	34	<p>課題：石井・鳴門・新野といった学外のキャンパスに通うのが困難で、通学環境を理由に本心からの研究室選びを行える学生の数を減らしてしまっており、それに対する対応策が何も取られていないこと</p> <p>解決策①：常三島キャンパスから各キャンパスを結ぶスクールバスの導入 仮に生物資源の学生だけだと導入する上でのニーズが少なすぎるがゆえに導入に踏み出せていないのだとしたら、蔵本キャンパスの1年生を巻き込んでしまうのはどうであろうか。彼らは常三島と蔵本の両キャンパスを行き来しなければならず、通学に対して苦労している学生も多い。そこで、仮にはあるが常三島と蔵本そして石井を結ぶスクールバスを導入するのはどうであろうか。そうすることでバスのニーズを蔵本の1年生まで広げることで利用者数を大幅に増やすことができ、導入に踏み込む同期として十分なラインまでもっていくことができるのではないだろうか</p> <p>解決策②：通学する上での補助金の給付 昨年度当会にて「スクールバスの導入」を提起させていただいた際「研究室に通うのは卒業研究の一環であるからその問題はどうにもできない」といったような意見をいただいたが、「卒業研究」の一環とするなら、「学会などの遠征費用の補助手当」などと同じように扱うことはできないのだろうか。どの研究室に所属するのかによって学生の間で金銭的な差異が生まれている現状を放置しておくことは教育機関の在り方として正しいのだろうか。</p> <p>解決策③：仮眠室の設置</p>	遠方のキャンパスとなり、ご不便をおかけしております。人数が多い学部の実習等では、バスの利用もしていますが、少人数の研究に関しては難しい状況です。ただ一方では、特徴的なキャンパスでもあり、新棟も設置されましたのでよい環境になってきていますので、公共共通機関による移動も含め、ご意見は今後の検討課題とさせていただきます。  なお、現状、アンケート調査を行うなど前向きに検討しているところです。  仮眠室の設置については、各研究室毎検討していただくことが適切かと考えます。例えば、簡単なソファールをおいていただくなどが考えられます。
	学部1年		35	石井キャンパスに行くための交通機関などの費用の準備や時間について早急に決めて、来年春からの実装を目指してほしい。	
	学部1年		36	石井キャンパスと常三島キャンパスをつなげるシャトルバスの計画がどうなっているのか連絡をしていただきたいです。	
その他	学部1年		37	施設・設備としては国立大学ということもあって十分にそろっているのではないかと思います。  学習システムはまだまだ改善できる余地があると私は思っているので、考えていただきたいです。	ご意見ありがとうございます。学習システムについて、教務システムの更新に向けた検討など進めており、今後も改善に努めます。
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	38	学生にも大学内の駐車場を貸し出してほしい	ご意見をありがとうございます。本学では身体障害者等特別な事情のあるものをのぞき、自動車通学は原則として禁止しております。ご理解いただければと思います。
	学部2年	生物生産システムコース	39	あまり利用していない。	ご意見ありがとうございます。
	学部4年	応用生命コース	40	施設・設備は比較的充実していると思いました。	
	学部4年	生物生産システムコース	41	必要十分だと思う。	
	学部4年	食料科学コース	42	所属先の研究設備が整っており、研究に取り組みやすい環境です。	

令和6年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

教員との交流

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部3年	生物生産システムコース	1	現状：教員との交流を求める学生に対しては真摯な対応で接していただけるので満足している。しかし、教員との交流を深めたいと考える学生がどれだけいるだろうか。仮に教員に気軽に話をしに行ける学生の母数を増やしたいというのであれば、私は以下の解決策を提案する。  解決策：プロジェクト型の講義を導入する！ これを行うことで一方的な知識の伝授で講師対多数の学生という構図だったのが、講師が少人数の学生に対してより近い距離で指導を行えるようになり、学生自身の講師に対する親近感を育むことができるようになる。（部活動の顧問とか妙に親しみやすくないですか？アレです。）	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。
博士前期課程1年	生物生産科学コース	2	講義前日の夜に講義連絡が来るのはいかがなものなのか？	ご意見をありがとうございます。特定の授業であれば、授業評価アンケートの自由記述で書いていただけると改善につながります。
学部1年		3	あまり交流はなかった	まずは、自身の担任教員とラーニングポートフォリオ面談を行い、指導をしっかり受けてください。また、各教員はオフィスアワーの時間を設けていますので、関心のある研究内容の問い合わせなど積極的に活用してください。その他、学友会には教員も参加しますので、是非、参加して交流をしてください。
学部1年		4	実施された面談の時のみ会った。	
学部1年		5	担当の先生？みたいな人とはいい面談ができたと思う。	
学部2年	食料科学コース	6	担任の先生とは話す機会があるものの授業担当の先生とはそこまで交流できていない	
学部3年	食料科学コース	7	形式的な質問をされて終わることがほとんどだった。もう少し研究室についてや授業の取り方について雑談程度でも良いので話がしたかった。	
学部3年	食料科学コース	8	それほど積極的な交流ができたとは思えない。	
学部1年		9	できた	
学部1年		10	できました。アドバイスをたくさん頂きました。	
学部1年		11	ある程度できました。	
学部1年		12	ある程度交流はできたと思います。	
学部1年		13	丁寧な対応をしてくれる先生が多かった。	
学部1年		14	出来たと思います。面談では、教授の色々なお話が聞けましたし、先輩のお話も聞けたので満足しています。	
学部1年		15	面談でも自分が疑問に思っていたことを聞くことができたのでいい交流ができていると思う。	
学部1年		16	交流できた。	
学部1年		17	交流できたと思う。	
学部1年		18	はい、積極的な交流ができました	
学部1年		19	丁寧に対応して頂きました	
学部1年		20	ある程度交流できました	
学部1年		21	面談でかなりいろいろな話ができよかった。	

教員との交流

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部2年	応用生命コース	22	交流できた。	
学部2年	応用生命コース	23	先生も教務の方も、困ったことがあれば助けてくださり、親身な方が多いと感じます。	
学部2年	応用生命コース	24	授業後に質問すると丁寧に答えてくれたのでよかった。	
学部2年	応用生命コース	25	担任の教員は特に親身になって面談をしてくれました。	
学部2年	応用生命コース	26	自分の進路やこれからの学業について、山本圭先生がしっかり相談にのって頂けて非常に良かったです。	
学部2年	食料科学コース	27	面談では話しやすい環境を設けていただいた。	
学部2年	食料科学コース	28	実験の時に交流がたくさんできた。	
学部2年	食料科学コース	29	面談で話せた。	
学部2年	食料科学コース	30	いい面談を受けることができました。	
学部2年	食料科学コース	31	積極的ではないが交流はできたと思う。	
学部2年	食料科学コース	32	面談では自身の単位についてなど、不安が少し解消され、有意義なものだった。	
学部2年	食料科学コース	33	できていた。	
学部2年	食料科学コース	34	真剣に相談に乗ってくれた	
学部2年	食料科学コース	35	面談があることで授業以外で関わる機会ができ、日常生活のことも話せてよかった。	
学部2年	食料科学コース	36	生物資源産業学部の先生と面談を通じて交流ができました。	
学部2年	食料科学コース	37	とても出来ていると思います。	
学部2年	食料科学コース	38	田中保先生が親身になって相談に乗ってくださった。	
学部2年	食料科学コース	39	質問したら丁寧に教えてくれた	
学部2年	生物生産システムコース	40	5に記載した通り。他の先生に大しては特に何も無い。担任の先生は親身に対応してくださってとてもありがたかった。	
学部2年	生物生産システムコース	41	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。	
学部3年	応用生命コース	42	質問に対して真摯に答えて頂くことができた。	
学部3年	応用生命コース	43	相談などにも丁寧にのっていただき、非常に助けていただいているので、とても満足しています。	
学部3年	食料科学コース	44	十分にできていた。	
学部3年	食料科学コース	45	学内のことだけでなく、学外での生活も気にかけていただいているのでとても心強いです。	
学部3年	食料科学コース	46	普段関わることのない教員との数少ない交流の機会と思う。	
学部3年	食料科学コース	47	フードサイエンスの授業が研究室選びにおいてとても参考になった。	
学部3年	食料科学コース	48	面談を通じて交流ができた。	
学部3年	食料科学コース	49	交流できた	
学部3年	応用生命コース	50	面談では親身になって話を聞いてくれる教員が多かった。授業後に不明な点を確認した際にも丁寧に対応してくださった。しかしこれに関しては学生にも主体的な行動が求められると感じたのでmanabaなどを利用して授業のフィードバックができれば便利だと思った。	
学部3年	生物生産システムコース	51	できました。	

教員との交流

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部4年	応用生命コース	52	研究室の先生とは円滑なコミュニケーションがとれており、とても気にかけてくださるので、ありがたいです。	
学部4年	応用生命コース	53	授業や面談を通じて積極的な交流が出来たと思う。	
学部4年	応用生命コース	54	研究室配属になり、指導教員とコミュニケーションの機会が増えた。	
学部4年	応用生命コース	55	特に面談や研究活動の場で積極的な交流ができました。	
学部4年	応用生命コース	56	はい。	
学部4年	食料科学コース	57	積極的な交流ができたと思っている。	
学部4年	食料科学コース	58	研究室旅行などを通して、他の研究室の先生方とも交流する機会がありました。	
学部4年	食料科学コース	59	面談や研究進捗報告を通じて交流できていると感じる。	
学部4年	食料科学コース	60	積極的な交流ができました。	
学部4年	食料科学コース	61	十分な交流ができたと感じている	
学部4年	食料科学コース	62	交流できた。	
学部4年	生物生産システムコース	63	積極的な交流ができた。	
博士前期課程1年	応用生命科学コース	64	できた。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	65	学部の授業に比べて、先生方との交流は多かったように感じる。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	66	研究室の先生はほぼ毎日話に来てくださるため、話したいことがあるときにもコミュニケーションがとりやすいと感じる。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	67	オンラインでの授業であるため、交流の機会はあまりありませんでした。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	68	授業や面談に限らず、教員の方々はお優しく対応してくださいました。そのため、気軽に相談させていただくことができて良かったです。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	69	研究室に配属されているため、積極的な交流はできました。	
博士前期課程1年	応用生命科学コース	70	積極的な交流は出来た。	
博士前期課程1年	生物生産科学コース	71	どの先生方も丁寧に授業をしてくださって、研究活動だけでなく授業で学ぶ時間があることにより、考えの幅が広がり見方が変わったりなどして、良い学習機会になっています。	
博士前期課程2年	食料生物科学コース	72	交流できた。	
博士前期課程2年	食料生物科学コース	73	学期ごとに研究計画についての面談をしていたので、担当教員だけでなく他の研究室の教員とも積極的に交流できたと思う	
博士前期課程2年	食料生物科学コース	74	交流できました。親切に対応いただきました。	
博士前期課程2年	生物生産科学コース	75	研究計画書で、担当教員等と話すことができた。	
博士前期課程2年	応用生命科学コース	76	積極的な交流はできた	
博士前期課程2年	生物生産科学コース	77	できました。要望はありません。	

令和6年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート  
DP・CP

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
見たことがあり、参考にしたことがある。	学部1年		1	見たことがあり、参考にしている部分がある。	ご意見をありがとうございます。参考にさせていただきます。
	学部1年		2	はい、参考にしています	
	学部1年		3	見たことがあり、参考にしている	
	学部2年	食料科学コース	4	見たことがあり、参考にしている。	
	学部2年	食料科学コース	5	はい。入試前の作文の参考にした。	
	学部2年	食料科学コース	6	受験の際には参考にさせていただきました。、	
	学部4年	食料科学コース	7	見たことがある。一応参考にしている。	
	学部4年	食料科学コース	8	参考にしています。	
	学部4年	応用生命コース	9	カリキュラムポリシーは確認したことがあり、参考にしました。	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	10	あります。参考にしております。	
見たことはある。	学部1年		11	見たことがあります。	
	学部1年		12	見たことがある	
	学部1年		13	ある。	
	学部1年		14	見たことがあります	
	学部1年		15	見たことはある	
	学部2年	応用生命コース	16	見たことはあります。	
	学部2年	食料科学コース	17	受験の時に見た。	
	学部2年	食料科学コース	18	ある。	
	学部2年	食料科学コース	19	ある。	
	学部2年	食料科学コース	20	ある	
	学部2年	食料科学コース	21	見たことはあります。	
	学部2年	食料科学コース	22	カリキュラムポリシーを見たことはあります。	
	学部2年	食料科学コース	23	生物資源産業学部のポリシーは見たことがあります。	
	学部2年	生物生産システムコース	24	はい。	
	学部3年	食料科学コース	25	見たことはある。	
	学部3年	食料科学コース	26	はい	
	学部3年	食料科学コース	27	あります。	
	学部3年	食料科学コース	28	見たことがある。	
	学部3年	食料科学コース	29	ある	
	学部4年	応用生命コース	30	ある。	
	学部4年	食料科学コース	31	見たことがあります。	
	学部4年	食料科学コース	32	見たことはあります。	
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	33	見たことはある。	
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	34	見たことはある。	
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	35	はい。	
	博士前期課程2年	応用生命科学コース	36	みたことはある	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	37	はい	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	38	就活時に見た	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	39	見たことはある。	
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	40	みたことある。	

DP・CP

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
見たことはあるが、 参考にしていない。	学部1年		41	ありますが、参考にしていません。	
	学部1年		42	ありますが、あまり参考にしていません。わかりづらく感じます。具体例(過去の先輩の実績やお話) をのせていただけますとイメージがついてわかりやすいと思います。	
	学部2年	応用生命コース	43	受験する際に見て以来見ていないです。	
	学部2年	応用生命コース	44	見たことはあるが、参考にしているかと言われればそうではない。	
	学部2年	食料科学コース	45	あまり参考にしていない	
	学部2年	食料科学コース	46	見てはいるが、参考にしているかどうかと言うと何とも言えない	
	学部2年	生物生産システムコース	47	入試時に見たが、それ以降は見ておらず、参考にしていない。	
	学部3年	応用生命コース	48	見たことも、存在自体も知らなかった。参考にしていない。	
	学部3年	生物生産システムコース	49	まったく参考にしていない。	
	学部4年	応用生命コース	50	見たことはあるが、あまり気にしていなかった。	
	学部4年	応用生命コース	51	一年次以来、見ていない。	
	学部4年	生物生産システムコース	52	あまり参考にしていない。	
	博士前期課程1年	応用生命科学コース	53	見たことはあるがしっかりと覚えていない。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	54	見たことあるかもしれないが覚えていない。参考にしていない。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	55	あります。参考にはしておりませんでした。	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	56	見たことがあるが、あまり参考にはしていない	
	博士前期課程1年	食料生物科学コース	57	聞いたことはありますが覚えていません。	
	博士前期課程1年	生物生産科学コース	58	見たことはあるが、一体これらが何の参考になるというのか？	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	59	どちらも見たことはあるが、参考にはしていない。	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	60	見たことはあるが参考にしていなかった。	
	博士前期課程2年	生物生産科学コース	61	見たことはありますが、ほとんど参考にできていません。	
見たことがない。	学部1年		62	ない	
	学部1年		63	みたことない	
	学部1年		64	見たことはない	
	学部1年		65	見たことがない	
	学部1年		66	みたことがない。	
	学部1年		67	ありません	
	学部1年		68	見たことも参考にしたこともない。	
	学部1年		69	見たことがないです。	
	学部2年	応用生命コース	70	見たことないし、参考にもしていないが、今の環境には大変満足している。	
	学部2年	応用生命コース	71	いいえ。	
	学部2年	食料科学コース	72	ディプロマポリシーそしてカリキュラムポリシーともに見たことがない。	
	学部2年	食料科学コース	73	ない	
	学部2年	食料科学コース	74	見たことない。	
	学部2年	食料科学コース	75	見たことはない	
	学部2年	食料科学コース	76	ありません	
	学部3年	応用生命コース	77	見たことが無い気がします。	
	学部3年	食料科学コース	78	見たことがありません。	
	学部3年	食料科学コース	79	見たことない	
	学部3年	食料科学コース	80	見たことがない。参考にしていない。	



DP・CP

項目	学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
	学部3年	食料科学コース	81	見たことがない。	
	学部4年	応用生命コース	82	見たことがない。	
	学部4年	食料科学コース	83	見たことがないと思う。	
	学部4年	食料科学コース	84	ありません。	
	学部4年	食料科学コース	85	見ていない	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	86	見たことがない	
	博士前期課程2年	食料生物科学コース	87	いいえ	

令和 6 年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		1	応用生命か食品科学に進み大学院進学	各コースの枠、コース希望調査、1 年次の全成績（GPAとGPT）を総合的に勘案して決定することになります。成績のみで決定されるわけではありませんが、判断材料の一つとなりますので、勉学にもしっかり力を入れていただければと思います。希望コースを目指してがんばってください。
学部2年	応用生命コース	2	別の大学の大学院へ進学した方の進学先を具体的に知りたいです	2024.3卒：京都大学大学院（2 名），岡山大学大学院，横浜市立大学大学院 2023.3卒：岡山大学大学院（2名）奈良先端科学技術大学院大学（2名），九州大学大学院，名古屋大学大学院，大阪大学大学院，神戸大学大学院，鳴門教育大学大学院，東京海洋大学大学院，早稲田大学大学院 2022.3卒：徳島大学大学院医科栄養学研究科，京都大学大学院（2名），九州大学大学院，岡山大学大学院（2名），名古屋大学大学院，奈良先端科学技術大学院大学（2名），大阪公立大学大学院，横浜市立大学大学院
学部2年	応用生命コース	3	進路に関する選択肢、説明を早いうちからしてほしいと感じた。早めに選択肢を多く知ることによって進路の幅が広がるため。	現在は就職に関する説明会（マイナビ・リクナビの登録，キャリア支援室の説明）を3年生のオリエンテーション時に行っています。また，1年前期の講義「キャリアパス」で進路等将来のことについての説明をしていると思います。早くいろいろ知りたい人は、キャリア支援室に早いうちから相談に行ったり，リクナビ，マイナビの低学年用の説明会に参加する方法があります。
学部2年	生物生産システムコース	4	大学院に進学したいと考えているがどの研究室が大学院に進学率が高いか	大学院への進学率は各研究室で異なります。どの様な研究を行いたいのか、将来何をしたいのかを考えて、研究室を選び進学して下さい。

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部2年	生物生産システムコース	5	進学を考えている。研究室訪問についてアポの取り方や見学の際はどのような点に注目するとよいかなどのレクチャーをしてほしい。	進学に関しては、学びたいと思う分野が当学にあればその先生にコンタクトされて下さい。研究室の配属後も他の研究室に進学することは良くあります。次年度から研究室訪問は3年生の夏休み前に各研究室紹介を行いますので、その内容を伺って学びたい研究室を選択して下さい。
学部3年	生物生産システムコース	6	教員のコネをフル活用した就職セミナーがあれば最高です。 とりあえず大企業に行っとけば、公務員に行っておけばプライベートの充実は保たれる！ と考える学生にとっても、中小企業で主体性をもって自身のやりたいとと仕事を結び付けてバリバリ活躍したいという学生にとっても、教員のコネというのはやはりありがたいものである。 楽して就活したい！	教員のコネを利用した就職セミナーは研究室単位で実施されています。 推薦する教員も学生の適性をみて紹介されるか否かを決定されていると思料します。  (以下、キャリア支援室からの回答) そのような経緯で就職した場合、入社後のミスマッチや方向転換などが起きる可能性もありますので、自己分析・自己理解を深め、適切に情報収集を行い就職活動する事をお勧めします。
博士前期課程1年	応用生命科学コース	7	生物資源産業学部卒業生がどういったところに就職したかのまとめ表なのが見てみたい。	(キャリア支援室からの回答) キャリア支援室に年度毎にまとめた一覧がありますので見にお越しください。

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		8	理系の就職の一連の流れを把握することができていないため、どのようなものか体系的に知る機会や資料が欲しい。	<p>（キャリア支援室からの回答）</p> <p>キャリア支援室主催の就職ガイダンスのなかで、就活スケジュールや心構え、インターンシップに参加するための選考ポイントなど就職活動に役立つ様々な情報をお伝えしていますので、ぜひ参加を検討してください。</p> <p>個別相談もご友人と一緒に利用する事もできますので、気軽に申し込んでください。</p> <p>（複数人での利用は申込み時にその旨をお伝えください。）</p> <p>スケジュール確認や予約は、キャリア支援室予約システムに登録して行います。</p> <p>キャリア支援室予約システム：：  <a href="https://www.tokudai-syusyoku.com/index.php">https://www.tokudai-syusyoku.com/index.php</a></p> <p>また、キャリア支援室で発行している「Recruit Handbook 2023-2025」にも就職活動に関する様々な情報を掲載しています。学部置いてない場合は、キャリア室に取りに来てください。</p>
学部2年	食料科学コース	9	就職先の斡旋や、資格の取り方などの説明会を行って欲しい。	<p>（キャリア支援室からの回答）</p> <p>大学推薦については、各コースにお問い合わせください。どのような資格の取得を目指しているのでしょうか？</p> <p>大学に届いた求人票は、教務システムのポートフォリオから確認する事ができます。必要な情報を個人のメールに転送設定する事ができますので、操作方法がわからない場合は、キャリア支援室に問い合わせただくか、Recruit Handbookを確認してください。</p> <p>徳島大学生をぜひ採用したいという事で来室した企業の一覧もキャリア支援室予約システムから確認する事ができます。希望の企業がありましたら、キャリア支援室スタッフにお声がけください。</p>

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部2年	食料科学コース	10	就職情報などの情報を知りたいため、容易に確認できるメールに流して欲しい。	（キャリア支援室からの回答） 求人票だけではなく、ガイダンスの開催やインターンシップ募集なども教務システムのポートフォリオから確認する事ができます。メールの転送設定をご検討ください。
学部3年	食料科学コース	11	県外の企業についてもう少し知りたい	（キャリア支援室からの回答） 学生さんの希望する業種や職種など、個別相談で相談する事ができます。 ぜひ、ご利用ください。
学部3年	食料科学コース	12	もっと就活の案内や推薦の案内してほしい	（キャリア支援室からの回答） 大学推薦については、コースに確認してください。 就職活動に関する案内については、求人票だけではなく、ガイダンスの開催やインターンシップ募集なども教務システムのポートフォリオから確認する事ができます。メールの転送設定を検討ください。 Xや学生食堂前のサイネージからも情報発信していますので、確認してください。

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
博士前期課程1年	応用生命科学コース	13	キャリア支援室の利用について、もっと大々的に宣伝してほしいです。最近使い始めましたが、もっと早く知りたかったと後悔しています。	<p>（キャリア支援室からの回答）</p> <p>キャリア支援室をご利用いただいているのですね。ありがとうございます。</p> <p>3年生のコースガイダンス時にキャリア支援室スタッフが参加し、キャリア支援室の利用案内を行ったり、Xや学生食堂前のサイネージからも情報発信していますが、学生の皆さんに訴えかける部分が少なかったようです。ガイダンス時の説明がより耳に入りやすくなるように改善していきたいと思います。</p> <p>また、学生のみなさんからどのような情報提供方法であれば学生のみなさんに伝わりやすいか、お教えいただければ改善に繋がれると思います。</p>
博士前期課程1年	生物生産科学コース	14	学生支援課キャリア支援係から送られてくるメッセージ、メールが情報管理の妨げとなっている。重要でない連絡はメッセージではなく、お知らせにするべきである。	
学部1年		15	創薬系	
学部1年		16	県内での就職に関心があります。	
学部1年		17	まだあまり決まっていない	
学部1年		18	学部を卒業後は大学院に進学したいと考えています。	
学部1年		19	院進学するかどうかが悩んでいる。	
学部1年		20	大学院に進学したい。	
学部1年		21	薬学部系	
学部2年	応用生命コース	22	近畿圏の大学院に進むか、海外の大学院に進むことも考えている。	
学部2年	応用生命コース	23	大学院に進学したいです。 徳島大学の院試も受けつつ、他大学の院試を受けることも視野に入れています。	<p>ご意見をありがとうございます。</p>
学部2年	応用生命コース	24	進学	
学部2年	応用生命コース	25	創薬系の研究室や、企業に就職したいです。	

今後の進路についての意見・要望

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部2年	食料科学コース	26	就職したいと考えている。	
学部2年	食料科学コース	27	徳島大学の大学院に行きたい。	
学部2年	食料科学コース	28	大学院に進学したいと考えている。	
学部2年	食料科学コース	29	大学院に進学したい	
学部2年	食料科学コース	30	大学院に進学したいです。	
学部2年	食料科学コース	31	先輩方の就職先を参考にしたい。	
学部2年	食料科学コース	32	就職するか進学するか迷っている	
学部2年	食料科学コース	33	就職したいと思っています。	
学部2年	食料科学コース	34	進学したい	
学部2年	食料科学コース	35	院に進むべか就職するべきか悩んでる	
学部2年	生物生産システムコース	36	できれば徳島大学、もしくは他大で院進し、修士課程を終えた後に就職したい。香料系の企業を考えている。	
学部3年	食料科学コース	37	徳島大学院に進学したいと考えている。	
学部3年	生物生産システムコース	38	進学希望です。	
学部4年	生物生産システムコース	39	大学院に進学予定	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	40	就職	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	41	現在は食品系のメーカーに就職したいと考えていますが、職種はまだ決めていません。	

令和6年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		1	マスターやドクターに行った方が専門的になり社会でも重宝されるイメージ。ただ博士までいくと逆に将来の選択肢が狭まりそうなイメージもある。 心配事としては、県外の大学院の進学も考えているので徳島大学大学院に行くのとの違いや手順、何を準備すればいいか、学部四年の研究を引き継げない場合などはどうするのかなどがある。	博士課程の状況も変わってきています。現在、博士課程のHPの改修を進めておりますので、ぜひ参考にしてください。本学部の大学院についてもHP等が参考になればと思います。また、クラス担任に面談の機会のときに相談してみても構いませんし、先輩学生等にも聞くなどして考えてもらえたらと思います。
博士前期課程2年	生物生産科学コース	2	研究に注力するイメージがある。心配事は基礎的な知識・技術の体得が研究室に入ってからになることです。自分で補填できる点も多くありますが、実験の手技は大学の施設を借りて習得しないと自分ではなかなか難しいと思います。また、コース間で育成する人材が異なることは把握できていますが、知識面や技能面で差が生まれるのはあまり良いこととは思えません。	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。
学部1年		3	大学院博士前期課程及び博士後期課程は学部生より授業が少なそうです。大学院に進学するか、直接就職するかは迷っています。	大学院では研究活動の比率が高くなり受講する講義の数自体は一般に少なくなります。卒業後に、高い専門性が求められる場での活躍を目指すのであれば大学院進学は非常に有意義だと思います。将来の進路をよく考えて判断していただければと思います。
学部2年	食料科学コース	4	一般的な大学生と就活の時期がずれるため、不安である。また研究室に配属されても体や心を壊さず有意義な研究が行えるのか	博士後期課程はやや事情が異なりますが、前期課程については毎年多くの院生が就活をしており、就活時期について学部学生とくらべて不利なことは特にないかと思います。大学院生としての生活や研究活動に対する不安などは、ぜひ配属希望の研究室教員などに話を聞いてみることを勧めます。
学部4年	食料科学コース	5	研究室での大学院博士前期課程の方の生活を見ていると、研究室での活動だけでなく授業も入ってくるため、忙しそうなイメージを持っている。 そのため、自分が大学院に進学してから、研究活動と授業の両立をすることができるかが不安。	学年、学期によって授業が忙しい時期もあるかと思います。しかし、授業の状況も考慮しながら研究計画をよく検討することで両立していくことが可能だと思います。ぜひ指導教員と研究テーマや計画について相談しながら進めていただければと思います。



MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		6	院試勉強が不安です	<p>大学院入試の詳細については、創成科学研究科生物資源学専攻博士前期課程募集要項に記載しており、生物資源産業学部ホームページ（以下URL）にも掲載しております。</p> <p>来年度実施の入試に関するお知らせについても、生物資源産業学部ホームページに逐一情報が公開されますので、定期的にご確認ください。</p> <p>博士前期課程入試ですから、3年生後半から配属される研究室での自身の研究を深く理解しておくことも必要となります。</p> <p>多くの先輩が修士課程に進んでいますから、先輩から事情を聴くことも不安解消の助けになるのではないのでしょうか。</p> <p>（生物資源産業学部HP-大学院入試案内） ★最新情報はこちらからご確認できます。 <a href="https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/category/graduate_school-admissions/">https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/category/graduate_school-admissions/</a> （生物資源産業学部HP-大学院入試募集要項） <a href="https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/admissions-information/graduate-exam/">https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/admissions-information/graduate-exam/</a></p>
学部2年	応用生命コース	7	大学院の試験が心配です。	
学部2年	食料科学コース	8	大学院に入る試験が難しそう。	
学部2年	食料科学コース	9	大学院への試験に関して不安を感じている。	
学部2年	食料科学コース	10	具体的なことがわからず、博士課程を修了させる人が少ないイメージがある。どのような試験なのかわからないので院試に向けてどのように勉強するべきかわからない。	
学部3年	応用生命コース	11	無知なだけかもしれないが、必要な条件だったりがよくわからないので、心配です。	
学部4年	応用生命コース	12	院試勉強です。	
学部4年	生物生産システムコース	13	大学院入試が大変だった。	

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部2年	応用生命コース	14	研究で忙しそうというイメージが強い。他大学の院に行く場合、メリット、デメリットや院試についてどのようなものかわからないため、不安を持っている。	他大学の修士課程へ進む場合、どのような内容の研究をしているのか、試験方法はどのようなものか、試験内容を学習可能なのか、受入研究室の先生は受け入れてくれるのか、等を自身で調べる必要があります。メリットは、住みたい土地に住めることや、新しい研究内容を学ぶことができること、心機一転できる、などでしょうか。デメリットは、試験について調べなくてはならない、学んでいない分野の試験問題が出る可能性がある、慣れた研究室ではないためもう一度一から研究室の特色に馴染む必要がある、人間関係を構築する必要がある、などでしょうか。メリット、デメリットは、個人により捉え方が違うので、自身でよく考えてみてください。
学部4年	応用生命コース	15	院試の推薦入試制度。 優秀な人を取りきれていない気がする。	創成科学研究科生物資源学専攻博士前期課程は3コースの入学試験となっております。 推薦入試における募集人員は毎年決まっております、その推薦方法等については各コースで都度検討されております。 推薦入試で合格するためには、常に優秀な成績を修めるよう努力することが重要となりますので、日頃から頑張ってみてください。
学部2年	応用生命コース	16	他大学の院に進むことも視野に入れる場合はどうなるのか知りたいです。	他大学の大学院博士前期課程に進学したい場合は、自身で希望の大学院と研究室を探し、受入教員にコンタクトを取る必要があります。その上で、希望の大学院の入試を受けて合格すれば入学できます。
学部2年	応用生命コース	17	大学院では研究室によっては飲み会なども盛んに行われているようで人付き合いが苦手なので少し不安です。	現在、飲み会を強制する研究室は無いと思います。人付き合いが上手になりたいと思ったときに、参加してみる程度で問題ないでしょう。

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部3年	食料科学コース	18	就職先がどのようなところがあるのか。 奨学金を取ったとして免除になるほど論文や学会に行かせてくれるのか。	どのような業界に就職できるのかは、学部のHPに公表されています。また、工業会会報には社名まで掲載されています。 論文発表や学会発表するための内容の判断は、研究室により異なります。指導教員に相談してみてもいいでしょうか。
博士前期課程2年	食料生物科学コース	19	学部時代と大学院に配属された後で、先生の補助が一気に減り、こんなはずではなかったと感じている。	学部生と大学院生に対する指導のあり方は、異なってくるかと思います。自発的な研究活動を期待してのことではないでしょうか。心配であれば、指導教員に相談してみてもいいでしょうか。
学部2年	生物生産システムコース	20	専門的な知識が求められ、学部で学修した内容をそれ以降の課程で活かすことができるか心配である。 また、大学院に関して、英語の学習が必要であるが大学入学後は英語に接する機会が少なくなっており、院試に向けて学習し直さなければならないことが心配である。	大学院に進学する場合は学修した専門知識が生かせるかと思います。国研等の研究機関も導様に修学内容が生かれます。しかし、企業においては、大学で修学した内容を一旦リセットして、合理的な価値から専門性を追求することになります。すなわち多面的な要素が求められます。

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		21	大変そうではあるが、学部卒より、自分の研究してきたことがそのまま仕事に直結する可能性が高いため、やりがいはあるとは思いますが、自分の興味のないことを研究しないといけない場合、しんどい思いもするのだろうと思っています。大学院に進学するうえでの心配事は学費・費用面です。一人暮らしをする場合、仕送りなしでやっていくつもりであるので、お金の面で不安があり、やりたいことがあったとしても踏みとどまってしまうのではないかとと思っています。	<p>（経済支援係からの回答）</p> <p>大学院生については、大学独自の制度により、入学料免除及び授業料免除を実施しています。</p> <p>家族の人数や経済状況、就学状況等により定められた家計基準と、学力基準の2つの基準により、全額免除、半額免除又は不許可のいずれかに判定されます。</p> <p>また、奨学金を希望する場合は、日本学生支援機構の貸与奨学金（無利子及び有利子）、地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金等があります。</p> <p>日本学生支援機構の貸与奨学金には、「特に優れた業績による返還免除」の制度や、地方公共団体や企業による返還支援制度等もありますので、ご活用ください。</p> <p>本学独自の奨学金としては、博士後期課程対象のゆめ奨学金があります。</p> <p>また、民間奨学団体の奨学金では、大学院生も給付及び貸与奨学金の対象となっているものがあります。</p> <p>大学に募集が来る奨学金は、その奨学金の趣旨や対象に合わせた時期に教務システムのお知らせ登録により周知していますので、是非ご確認ください。</p> <p>また、徳島大学はJSTの「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択されております。</p> <p>博士後期課程の大学院学生を対象に、生活費相当額（月額18万円）と研究費（年額30万円）が支給・配分されるとともに、学生支援プロジェクト（研究環境とキャリア開発・育成コンテンツ）を受けることができる制度となっております。</p> <p>※制度の詳細については大学ホームページの「教育・学生生活」タブの「授業料免除・奨学金等」のページに掲載されています。</p>
学部2年	応用生命コース	22	奨学金の給付型がないと聞いたことがあります。学費の面で心配です。	
学部2年	応用生命コース	23	費用。博士課程まで進学するとなるとやっぱり費用が心配です。	
学部3年	応用生命コース	24	研究が好きな人またはまだ就職したくない人が行くイメージ。学費が心配である。	
博士前期課程2年	食料生物科学コース	25	大学院に進学するにあたって経済面で不安があった	
学部2年	食料科学コース	26	忙しそう。就活のサポートをしてもらえるのか不安。	<p>（キャリア支援室からの回答）</p> <p>確かに忙しいとは思いますが、学業と就職活動の両立は可能と思われます。不安な事があれば早めに先生方やキャリア支援室にご相談ください。</p>
学部1年		27	就職に有利	
学部1年		28	研究に取り組んでいるイメージ	
学部1年		29	より専門的なことを学べそう	
学部1年		30	研究活動が時間に縛られていて大変そう。	

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		31	自分の研究時間が多く確保できる	
学部1年		32	何本も論文を出す必要があるイメージ。	
学部1年		33	大学院進学については前向きに考えている	
学部1年		34	よっぽどやりたいことができない限りは行かないであろう場所。	
学部1年		35	いかなくていい	
学部1年		36	博士前期課程まで進学したいと思っている。	
学部1年		37	就職に不利になるイメージがある。	
学部1年		38	勉強が大変そう	
学部1年		39	勉強が難しそうというイメージがあります	
学部1年		40	ほとんど研究を行っているイメージです。	
学部1年		41	大学院は就職が強くなるイメージがある	
学部2年	応用生命コース	42	就職の心配はなさそうですが、先輩たちの話を聞いている限り、毎日とても忙しくて大変 そうです。	
学部2年	食料科学コース	43	博士課程はとにかく一つの分野の研究を突き詰めるイメージを持っています。	
学部2年	食料科学コース	44	より専門的に学べそう。	
学部2年	食料科学コース	45	より専門的な研究を行いたい、学びたいという人は大学院まで行くというイメージがあ る。	
学部2年	食料科学コース	46	難しい	
学部2年	食料科学コース	47	大変そうやけど研究室によってはすごく充実しているイメージがある	
学部2年	食料科学コース	48	ずっと研究をしているイメージ	
学部2年	食料科学コース	49	難しい	
学部2年	食料科学コース	50	実験や論文が難しく、自分にはできそうにないイメージ	
学部2年	食料科学コース	51	楽しそうだけど、大変そう 生きがいが見つかりそう	
学部2年	生物生産システムコース	52	博士前期課程は研究職や専門職を目指すなら必須だと思う。博士後期課程は余程研究がし たい人が行くところだと思う。 心配事等は特にない。成績くらい。	
学部3年	食料科学コース	53	大変そうだなと感じている。	
学部3年	食料科学コース	54	博士前期は自分で計画や方法を考えて研究をすすめているので、いろいろなスキルを身に つけられそうなイメージがあります。博士後期は就職が難しいイメージがあります。	
学部3年	食料科学コース	55	アルバイトをする時間があるか不安。	
学部3年	食料科学コース	56	研究・授業・就職活動などで忙しそうなイメージがある。	
学部3年	食料科学コース	57	研究ができる	
学部3年	生物生産システムコース	58	学費！！ 院への進学は現在考えていない！	

MR・DRのイメージ

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部4年	応用生命コース	59	より専門的な知識も必要になってくるイメージ。 学会などより大きな場所での発表の機会が多くなると思うので、自分の分野をしっかりと学習していきたい。	
学部4年	応用生命コース	60	学部での学習よりもより専門的な内容に取り組むイメージ。	
学部4年	応用生命コース	61	大学4年次の研究を継続させることができるため、大学院に進学する意義はあると思います。特に徳島大学大学院創成科学科では研究をするための環境が整っていると思います。	
学部4年	応用生命コース	62	実験に、更に真摯に向き合って毎日を過ごすイメージ。	
学部4年	食料科学コース	63	研究をより深く学ぶことが出来るというイメージ。	
学部4年	食料科学コース	64	専門性の高い勉強をし研究に追われる生活になるイメージ	
学部4年	食料科学コース	65	前期課程は多くの人が進むイメージ、後期課程は進みにくいイメージです。	
学部4年	食料科学コース	66	自分の研究をより深く進められるイメージを持っている。 また、より詳しい知識を獲得できるイメージをもっている。	
学部4年	生物生産システムコース	67	研究室が石井キャンパスにあるので、授業の受講のために常三島と石井を行き来することが大変そうなイメージがある。	
博士前期課程1年	応用生命科学コース	68	結果を出さなくてはいけなくて大変なイメージ。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	69	社会に出るのが遅れる気がする。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	70	博士後期課程は英語の論文を出さなくては卒業できずハードルが高いイメージ。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	71	大変なイメージ	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	72	より専門的な知識や技術が求められ、自身の研究分野に関する知識を深めることができるというイメージを持っています。	
博士前期課程1年	食料生物科学コース	73	学会での発表が卒業要件に含まれており、頑張らないといけないというイメージを持っていた。	
博士前期課程1年	生物生産科学コース	74	前期課程：当面、就職から逃げたい人が進む場 後期課程：滅多に進む人のいない修羅の道  合格発表時刻から15分が過ぎても合否が掲載されないような杜撰な大学院に進学して大丈夫なのか心配(2024年度博士前期課程推薦入試の合否発表)。	
博士前期課程2年	応用生命科学コース	75	専門的な知識や自発的な考え方を得ることができる	
博士前期課程2年	食料生物科学コース	76	研究活動が忙しいイメージ。	
博士前期課程2年	生物生産科学コース	77	研究がより深くできる。	

令和 6 年度 学生と学部長・専攻長等との懇談会 事前アンケート

その他

学年	所属コース	通し 番号	意見・要望	学部からの回答
学部1年		1	Hskなどもっと多くの言語認定試験をマイレージポイントに変更可能にすること	ご意見をありがとうございます。今後の改善の参考とさせていただきます。
博士前期課程1年	生物生産科学コース	2	<p>教育支援課教務情報係から「こんにちは」(原文ママ)というメールが度々来るが、学生を舐めているのか?となる。</p> <p>生物資源産業学部学務係から「【重要;9/30までに要提出】提出物等について」というお知らせが来たが、重要ならばお知らせではなく、メッセージ機能で送るべきである。</p> <p>徳島大学工業会からの情報提供要請を拒否したら、教員を通じて再度情報を提供するよう連絡があった。教員を介した要請を断れる学生が果たしてどれだけいるのか?事実上強制となっている現状を改めるべきである。</p> <p>本アンケートの14において、「参加したくない」という選択肢が無いのはおかしい。</p> <p>昨年の学部長との懇談会において、事前に「生物資源産業学部・生物資源学専攻教育プログラム評価委員会」の委員になるようにとの連絡が明確になされないまま、当日なし崩し的に委員になることを要請されたが、これは騙し討ちではないのか?学生の参加を要請するのであれば、詳細を全て事前に開示すべきである。また、後日公開された文書の中に「可決」といった文言があったと記憶しているが、当日、こういう形で良いかと尋ねる形式はあったものの、明確な賛否を問う形式はなかったと記憶している。「可決」という文言を用いるのであれば、挙手など明確に賛否を問うべきである。</p>	ご意見をありがとうございます。関係各所にお伝えいたします。
学部3年	生物生産システムコース	3	形式だけの懇談会になるのか、ちゃんとした論議が行われるのか、、、 私のような一学生の意見が少しでも上層の方々に届けばよいと考えています。	ご意見をありがとうございます。懇談会、又は引き続いて開催される教育プログラム評価委員会で出されたご意見等は、関係委員会に提供の上、対応を検討することとしています。